

淡路市

老ノ内遺跡

—(主)志筑郡家線交通安全施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26(2014)年3月

兵庫県教育委員会

淡路市

老ノ内遺跡

—(主)志筑郡家線交通安全施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26(2014)年3月

兵庫県教育委員会

例　　言

- 1 本書は、兵庫県淡路市一宮町多賀に所在する老ノ内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、（主）志筑郡家線交通安全施設整備事業に伴うもので、兵庫県淡路県民局洲本土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。
- 3 調査の推移
(発掘作業)
確認調査 平成21年11月6日／平成23年4月28日
実施機関：兵庫県立考古博物館
本発掘調査 平成21年11月13日～平成21年11月20日
平成23年9月26・27日
実施機関：兵庫県立考古博物館
(出土品整理作業)
平成25年7月1日～平成26年3月28日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 4 本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 長濱誠司が担当した。
- 5 造構の写真撮影および実測は現地にて調査担当者が行った。遺物写真撮影は、株式会社クレアチオに委託して行った。
- 6 調査成果の測量は、2区については、座標は界割地系に基づくもので、調査地は第V系に属する。
- 7 本書に用いた方位は、1区は磁北、2区は座標北を示す。また、標高は各地区ともに東京湾平均水準を基準とした。
- 8 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 9 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、淡路市教育委員会をはじめ関係各機関のご協力をいただいた。ここに感謝の意を表します。

本文目次

第1章 調査の経過	
第1節 調査に至る経緯·····	1
第2節 老ノ内遺跡·····	1
第3節 発掘調査の経過·····	1
第4節 出土品整理作業の経過と体制·····	4
第2章 遺跡をとりまく環境	
第1節 地理的環境·····	5
第2節 歴史的環境·····	5
第3章 調査の結果	
第1節 1区の調査·····	9
第2節 2区の調査·····	15
第4章 まとめ·····	18
報告書抄録·····	20

挿図目次

第1図 遺跡の位置·····	図
第2図 調査地点位置図·····	3
第3図 周辺の遺跡（1）·····	7
第4図 周辺の遺跡（2）·····	8
第5図 1区西壁断面図·····	9
第6図 1区全体図·····	10
第7図 掘立柱建物跡（1）·····	11
第8図 掘立柱建物跡（2）·····	12
第9図 掘立柱建物跡（3）·····	13
第10図 1区出土遺物·····	15
第11図 2区西壁断面図·····	15
第12図 2区全体図·····	16
第13図 2区S D01断面図·····	17
第14図 2区出土遺物·····	17
第15図 淡路島の交通路と古代の主要遺跡·····	19

写真図版目次

- 写真図版1 1区全景 1区全景
- 写真図版2 1区西壁①断面 1区西壁②断面 1区S B01
- 写真図版3 1区S B02 1区S B03 1区S B04
- 写真図版4 1区出土土器 1区出土鉄製品
- 写真図版5 1区現況 1区から2区を見る
- 写真図版6 2区全景 2区全景 2区北壁断面
- 写真図版7 2区柱穴 2区P 1断面 2区P 2断面 2区S D01
- 写真図版8 2区出土土器 2区出土鉄製品



第1図 遺跡の位置

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

淡路島の道路網は、本州と四国を結ぶ神戸淡路鳴門自動車道が南北に貫通するほか、東側の大坂湾沿いに国道28号、西側の播磨灘沿いに県道福良江井岩屋線がある。これら道路は大都市近郊に位置する淡路島の大動脈であり、地場産業の出荷、観光などに用いられる。南北に山地がのびる淡路は島の東西を結ぶ交通路も重要である。本報告に関連する（主）志筑郡家線（旧（主）津名一宮線）もそのうちの1路線である。淡路市志筑で国道28号と、同市郡家で県道福良江井岩屋線と接続する。淡路島中部の主要東西交通路であるとともに、神戸淡路鳴門自動車道の津名一宮インターチェンジとも接続するため交通量も多い。そこで交通安全施設の整備が洲本土本事務所によって順次進められた。

平成21・23年度に一宮町多賀において事業が進捗することとなり、埋蔵文化財の実態を確認する調査を実施し、埋蔵文化財が認められた範囲については、本発掘調査に移行した。

第2節 老ノ内遺跡

老ノ内遺跡は平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財調査により確認された遺跡である。被災住民に宅地を供給する目的で実施された多賀老ノ内地区の定住促進事業に伴い一宮町教委が調査主体となり、平成7年度から平成11年度まで計11次の調査が行われた。確認調査の結果、縄文から中世の集落遺跡であり、その範囲は約30,000m²におよぶことが明らかとなった。事業地内の道路部分を中心に、宅地部分は損壊部分のみ調査している。比較的狭小な調査区ではあるものの、縄文時代後期の円形土坑群、弥生時代中期の溝状落ち込み、平安時代の建物跡、柱穴が検出された。また、縄文・平安・中世の包含層が各地区で確認された。

また遺物は、縄文土器では北白川上層式から元住吉山式頃の後期後半の縁帶文土器が多量に出土している。須恵器・土師器は一部古墳時代にさかのぼるものがあるものの、奈良・平安時代が中心である。特筆する遺物として縄粧陶器、製塙土器の出土があり、古代においてこの遺跡が一般集落ではなかった可能性を示している。

第3節 発掘調査の経過

1. 分布調査

事業対象地全域を対象に分布調査を行った。多賀地区では遺物の散布はみられなかつたが、事業対象地が周知の遺跡である老ノ内遺跡の範囲と重複することを確認した。

事業名：（主）津名一宮線道路安全施設等整備事業

遺跡調査番号：2004069

調査年月日：平成16年4月16日

調査面積：13,000m²

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 吉田昇 山田清朝 鐵 英記

2. 確認調査

事業の進捗に対応し、確認調査は2次行い、その成果に基づいて本発掘調査に移行している。

遺跡調査番号：2009227

事業名：（主）志筑郡家線交通安全施設整備事業

調査年月日：平成21年11月6日

調査面積：8m²

調査担当者：兵庫県立考古博物館 企画調整班 山本 誠

概要

本報告の1区における確認調査である。2箇所のグリッドを設定し調査した。

いざれのグリッドも耕土・床土直下の明茶掲粘質土の基盤層が遺構面となり、埋土が黒色シルトを呈する柱穴を検出し、土器片が出土した。

事業対象地全域について、本報告の1区として本発掘調査に移行した。

遺跡調査番号：2011183

事業名：（主）志筑郡家線 社会資本整備総合交付金事業 歩道整備工事

調査年月日：平成23年4月28日

調査面積：16m²

調査担当者：兵庫県立考古博物館 企画調整課 小川弦太

概要

平成21年度調査区の西側について、トレンチ4箇所を設定し調査した。

トレント1～3は明確な地山が検出されず。浅い谷筋や湿地と思われる。

トレント4では地山面上で柱穴、溝を検出した。この部分について、本報告の2区として本発掘調査に移行した。

3. 本発掘調査

本発掘調査は、確認調査の成果に基づいて平成21・23年度に実施した。調査は、事業者である洲本土木事務所が発掘調査の人員・機械・道具を確保し、調査担当職員のみを教育委員会から派遣する「直接執行」の形態を行った。

遺跡調査番号：2009233

事業名（主）志筑郡家線交通安全施設整備事業

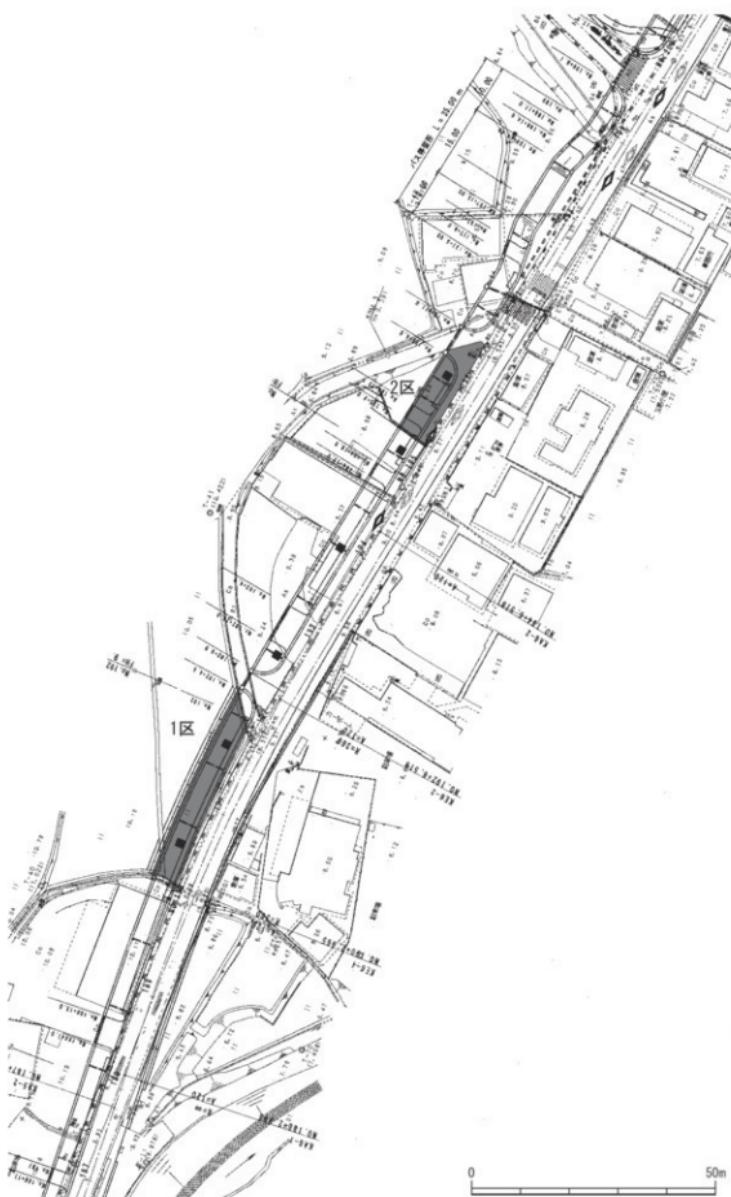
調査年月日：平成21年11月13日～20日

調査面積：200m²

調査担当者：兵庫県立考古博物館 企画調整班 山本 誠

調査第1班 長濱誠司

本報告の1区の本発掘調査である。



第2図 調査地点位置図

事業名（主）志筑郡家線　社会资本整備総合交付金事業　歩道整備工事（その3）

遺跡調査番号：2011265

調査年月日：平成23年9月26日～27日

調査面積：92m²

調査担当者：兵庫県立考古博物館　企画調整課　小川弦太

本報告の2区の本発掘調査である。

第4節　出土品整理作業の経過と体制

平成25年度に水洗・ネーミングから報告書刊行までの諸作業を単年度で実施した。

魚住分館において水洗・ネーミングを行った後、出土品を考古博物館へ搬入した。

工程管理担当：長瀬誠司・深江英恵

保存処理担当：岡本一秀

非常勤嘱託員等

水洗、ネーミング

今村直子・小野潤子・藤尾裕子・松本恵梨子

接合・補強、復元

荻野麻衣・佐々木愛・菅生真理子・上田紗耶香

実測、図補正、トレース、写真整理、レイアウト

友久伸子・加藤裕美・増田麻子

保存処理

桂　昭子・梶原奈津子

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

老ノ内遺跡の所在する淡路島は、周囲174km、総面積597km²を有する瀬戸内海最大の島であり、東は大阪湾、西は播磨灘、南は太平洋に面する。北は明石海峡を隔てて兵庫県明石市に対峙する。古代においては津名郡、三原郡の2郡からなり、三原郡に国府が置かれた。

いわゆる「平成の大合併」によって島内の市町は、三原郡4町（緑町、三原町、西淡町、南淡町）が平成17年1月11日に合併し南あわじ市となったのを最初に、津名郡6町のうち5町（淡路町、北淡町、津名町、東浦町、一宮町）が平成17年4月1日に合併し淡路市へ、残る五色町も平成18年2月11日に洲本市と合併して、古代以来存続した津名・三原両郡は行政区画上の名称から姿を消した。

淡路島の地質は、花崗岩から構成される北部の津名山地と和泉砂岩や頁岩から構成される南部の諭鶴羽山地に大別できる。諭鶴羽山地の北西側には島内最大の平野部である三原平野が形成され、農業王国淡路島の基盤となっている。

老ノ内遺跡の所在する淡路市は淡路島の北・中部を占め、市域の南側は洲本市と接し、北側は明石海峡をはさんで神戸市・明石市と対峙する。市域の面積は184.21km²におよび、島内の約3割を占める。人口は47,194人、世帯数19,788世帯（平成25年4月現在）である。

老ノ内遺跡は旧一宮町に所在し、淡路市の中では南西部に位置する。島内では西海岸のはば中央に位置する。

第2節 歴史的環境

旧石器・縄文時代

旧一宮町域およびその周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていない。

縄文時代の遺跡は、丘陵上で石器などの散布が確認されている。旧一宮町域では、老ノ内遺跡で一宮町教委の調査により後期後半の土器が出土し、貯蔵穴とみられる土坑群が検出されている。大本谷遺跡では早・中期の石器が採集されている。山田地区遺跡では調査により石器は出土しているが、土器や遺構は確認されていない。旧津名町では湯ノ谷池遺跡やその周辺で前期の北白川下層に属する土器片や石器が採集され、一帯の丘陵などに前期の集落が想定される。尼ヶ内遺跡周辺の丘陵でも土器・石器片が多く採集されており、付近に集落の存在が想定される。

弥生時代

当該期の遺跡のうち、前期は大阪湾岸の志筑平野に所在する横入遺跡で壙が検出されるのみである。

中期の遺跡も数少ないが、老ノ内遺跡では一宮町教委の調査でⅣ期の溝が検出されたほか、包含層からⅢ期の土器が少量ながら出土している。老ノ内遺跡と都家川をはさんだ郡家長谷遺跡でも土器・石器が出土している。播磨灘に面した江井崎遺跡は石器が採集されるほか、銅鐸出土地もある。また実態は不明だが、同堂遺跡や本光寺址遺跡など播磨灘を眺望する台地上に土器・石器の散布が広域にみられ、集落が展開しているとみられる。志筑平野に所在する横入遺跡では環濠の可能性がある溝が検出され、平野の最奥部に位置する天神遺跡は土器片、大型蛤貝石斧が採集されている。

後期に入ると遺跡数は急増し、各地で遺物が採集されているが、東側の大阪湾岸では当該期の遺跡の

大半は南北にのびる山地や丘陵上に所在する。櫻岡遺跡、高山遺跡は標高250mの山頂、本田谷遺跡が標高150mの斜面で土器、石器の散布が確認されている。延命寺遺跡は標高150mの緩斜面、黒谷遺跡は標高200mで遺物包含層が確認される。

古墳時代

この地域では中期以前にさかのぼる古墳は確認されておらず、現存するものはいずれも後期に属する小規模な古墳である。現存する古墳は、播磨灘沿岸で複数認められるが、大阪湾岸ではわずか1基のみである。ただし、丘陵部は耕地化が進んでいるため、消滅した古墳が少なからずあるものと考えられる。大木谷古墳も破壊により所在不明の古墳であったが、発掘調査で位置が明確となるとともに横穴式石室を埋葬する古墳であることが明らかとなった。大木谷古墳をはじめ旧一ノ宮町域の古墳は播磨灘を眺望する地点に立地する。郡家古墳は横穴式石室を埋葬施設とする。明神古墳群は堅穴式石室1基、箱式石棺1基が調査されている。宇栄我山古墳は堅穴式小石室を埋葬施設とする。古墳群を形成しているのは明神古墳群のみでその他は単独墳である。

当該期の集落遺跡は認められないが、郡家古墳付近で須恵器などの散布が認められ、集落の存在が想定される。大阪湾岸でも集落遺跡は確認されていないが、横入遺跡では土坑を検出しており周辺に集落の存在が考えられている。また海岸付近には近江ヶ原遺跡、下原田遺跡などで土師質土器片が多量に散布している。これらは製塙土器の可能性があり、製塙遺跡の存在が想定される。

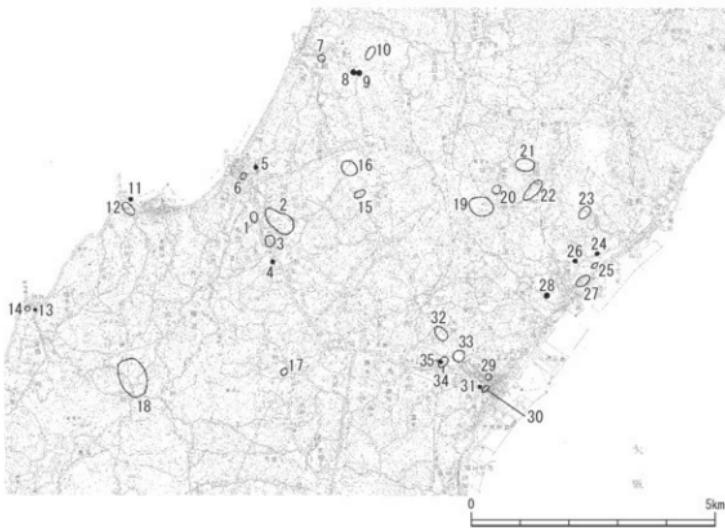
古代

淡路島は淡路国1国で南海道に属していた。北部の津名郡、南部の三原郡の2郡で構成され、島南部に南海道が通過する。淡路国府は南海道沿いに想定されている。津名郡衙は郡家長谷遺跡に想定されているが、田井A遺跡検出の河川から木製人形や木簡が出土し、大阪湾岸にも郡衙関連施設か豪族の居館が存在した可能性が考えられている。この田井A遺跡に隣接して飛鳥時代創建の志筑庵寺がある。田井A遺跡では志筑庵寺と同方向の水田が検出される。伊弉諾神宮は淡路一宮であり境内で瓦片が採集され、なんらかの施設が存在した可能性がある。山田地区遺跡では遺構は確認されなかったものの、石帯が出土し、付近に官衙的な施設が存在する可能性が指摘される。

中世

山田地区遺跡内では山田川沿いに平安後期から鎌倉期以降に小規模な集落が形成される。また、この時期の遺物は丘陵上も含め広い範囲で散布が認められていることから、開発が進み小規模ながら集落が各所で形成されたことが考えられる。山田地区遺跡のうち特に鎌倉・室町期の遺跡は現在の集落に継続し、現集落景観のルーツがこの時期にあることを示している。老ノ内遺跡では遺物包含層が確認され瓦器碗などが出土する。

城館遺跡は尾崎城があり、洲本城主が淡路島北部の出城として築城したと伝えられる。



第3図 周辺の遺跡（1）

1. 老ノ内遺跡
2. 郡家長谷遺跡
3. 伊弉諾神宮遺跡
4. 寺山古墳
5. 郡家古墳
6. 森ノ前遺跡
7. 同堂遺跡
8. 大木谷遺跡
9. 大木谷古墳
10. 尾崎城跡
11. 江井崎遺跡
12. 平見遺跡
13. 宇栄我山古墳
14. 明神古墳群
15. 本光寺址遺跡
16. 新村遺跡
17. 馬場遺跡
18. 山田地区遺跡
19. 黒谷遺跡
20. 樅岡遺跡
21. 高山遺跡
22. 延命寺遺跡
23. 本田谷遺跡
24. 畦ヶ内遺跡
25. 奥穴見古墳
26. 近江ヶ原遺跡
27. 下原田遺跡
28. 五反畠遺跡
29. 船橋遺跡
30. 高松遺跡
31. 志筑城跡
32. 天神遺跡
33. 田井A遺跡
34. 横入遺跡
35. 志筑廃寺遺跡



第4図 周辺の遺跡（2）

- | | | |
|---------------|----------------------|-----------|
| 1 老ノ内遺跡 | 1-2 老ノ内遺跡（2区） | 2 郡家長谷遺跡 |
| 1-1 老ノ内遺跡（1区） | 1-3 老ノ内遺跡（一宮町教委調査範囲） | 3 伊弉諾神宮遺跡 |

第3章 調査の結果

第1節 1区の調査

1. 基本層序

耕土以下、旧耕土層、青灰色シルトとなる。調査区北半は遺構面が2面確認でき、この青灰色シルト上面が奈良・平安時代と想定される第1遺構面となる。遺構面は一帯の水田化に伴い本来の面がかなり削平されているとみられる。さらにこの下層は暗青色シルトをはさんで、基盤層である茶褐色シルト質細砂となり、弥生・縄文時代と想定する第2面として調査した。



第5図 1区西壁断面図

2. 遺構

第1面で柱穴を約80基検出した。少なくとも4棟の掘立柱建物を復元でき、さらに全容不明な建物が2棟ある。

掘立柱建物跡

S B01 (第7図 写真図版2)

検出状況 調査区北端で検出した。他の建物との重複はないが、南東隅の柱穴が炭の集積と切り合いをもつ。北東隅は削平により損なわれる。

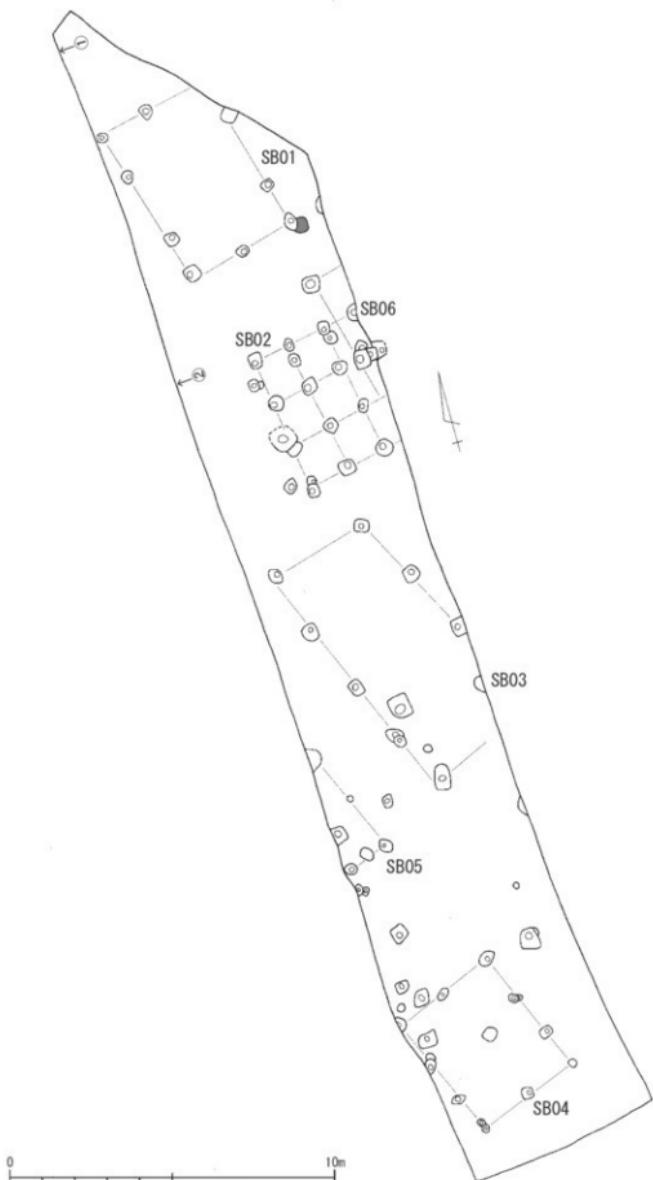
形状・規模 桁行2間(5.1m)、梁行3間(3.5m)を測る南北棟の掘立柱建物である。桁行方向の偏りはN-17°Wを示す。柱間は梁行方向が1.7m前後、桁行方向は隅の1間が1.2~1.4mであるのに対し、中央の1間は2.2m以上ある。

柱穴 掘方は平面の形状が方形か隅丸方形を呈し、径または1辺の規模が30~50cmを測る。検出面からの深さは15~20cm程度であるが、北西と南東隅の柱穴のみ30~50cmを測る。

出土遺物 P 1から土師器瓶の把手、P 8から不明鉄製品が出土している。

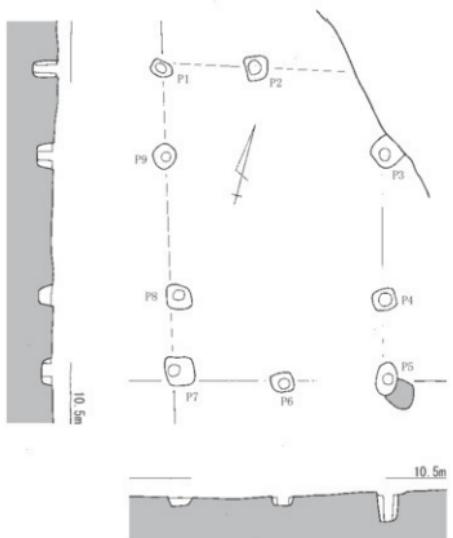
S B02 (第7図 写真図版3)

検出状況 調査区中央付近の東壁寄りで検出した。東辺のうち南東隅部分は削平により損なわれる。後述するS B06と重複する他、本建物と重複する柱穴列があり、一部柱穴に重複がみられることから、建

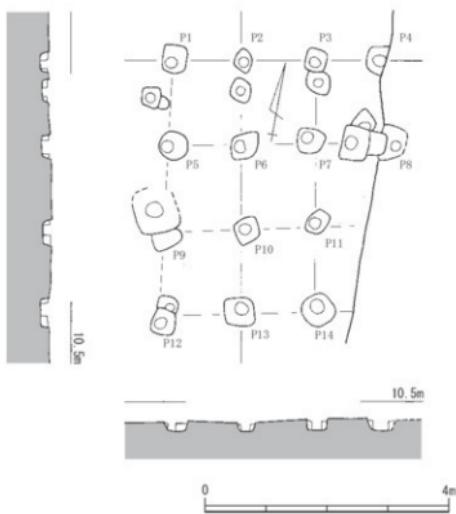


第6図 1区全体図

SB01



SB02



第7図 挖立柱建物跡(1)

物の建て替えを想定している。

形状・規模 東西3間（3.5m）×南北3間（4.2m）を測る矩形建物である。桁行方向の偏りはN-11°Wを示す。柱間は、南北方向が1.3ないし1.4m、東西方向が1.1～1.3mを測る。

柱穴 挖方の平面形は方形か円形を呈し、径または1辺の規模が30～60cmを測る。検出面からの深さは15～20cm程度である。

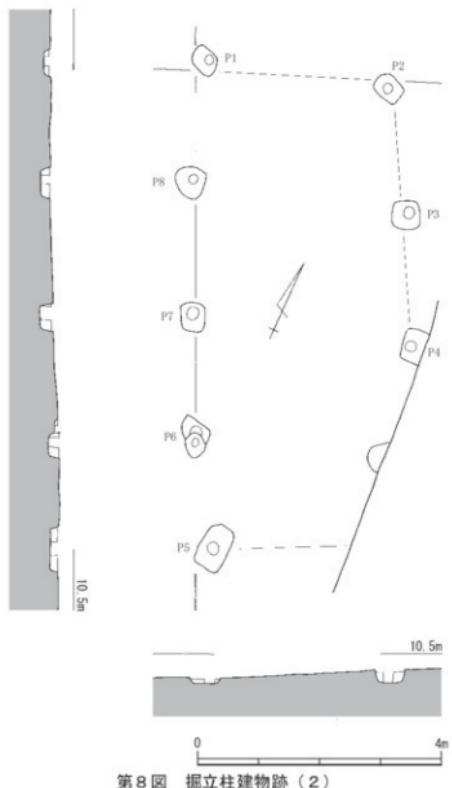
出土遺物 図化しうる遺物は出土していない。

S B03 (第8図 写真図版3)

検出状況 調査区中央付近で検出した。南東隅付近は削平により損なわれる。他の遺構との重複はみられないが、一部柱穴は切り合いをもつ。西側にS B05があり、本建物と南辺がほぼ接している。

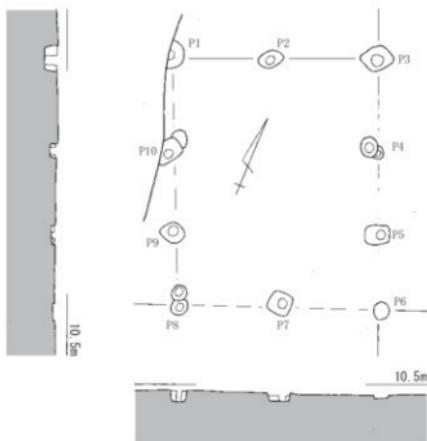
形状・規模 梁行1間（3m）以上、桁行4間（8m）を測る南北棟の個柱建物である。桁行方向の偏りはN-24°Wを示す。桁行方向の柱穴の並びは良好だが、西辺と東辺の対応する柱穴にややすれがみられる。柱穴間距離は、桁行方向が2～2.2m、梁行方向が約3mを測る。

S B03

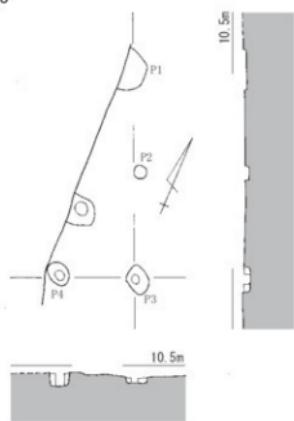


第8図 挖立柱建物跡（2）

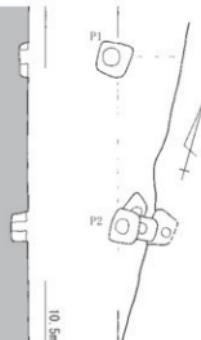
SB04



SB05



SB06



第9図 挖立柱建物跡（3）

柱穴 掘方の平面形は方形を呈し、一辺の長さは40~60cm、検出面からの深さは13~20cmである。

出土遺物 P 6から弥生土器底部が出土するが、混入したものであろう。

S B04（第9図 写真図版3）

検出状況 調査区南端で検出した。調査区の制約により北西隅の柱穴は一部を検出ただけだが、建物のほぼすべてを検出している。他の造構との重複はみられないが、一部柱穴は切り合いをもつ。北側にS B05があり、本建物と東辺がほぼ接っている。

形状・規模 梁行2間（3.4m）、桁行3間（4.1m）を測る南北棟の側柱建物である。桁行方向の偏りはN-24° Wを示す。柱穴の並びは良好であり、柱穴間は梁行方向が1.7m、桁行方向が1.2~1.5mを測る。

柱穴 掘方の平面形は方形か円形を呈し、径または一辺の長さが20~40cmを測る。検出面からの深さは12~20cmであるが、南東隅の柱穴のみ3cmと浅い。

出土遺物 固化しうる遺物は出土していない。

S B05（第9図）

検出状況 調査区中央の西壁際で検出した。検出したのは建物南東隅付近のみであり、大半は調査区外へ続いている。前述したように本建物の東辺はS B04の東辺と、南辺はS B03の南辺とほぼ接する。他の造構との重複はないはみられない。

形状・規模 東西1棟以上、南北2間以上を測るが、建物の大部分が調査区外となるため、全容は明らかではない。桁行方向の偏りはN-24° Wを示す。南北の柱穴間は1.7mを測る。

柱穴 掘方の平面形は方形または円形を呈する。径または一辺の長さが20~70cmを測る。検出面からの深さは3~10cmと浅い。

出土遺物 固化しうる遺物は出土していない。

S B06（第9図）

検出状況 調査区北半部の東壁際で検出した。建物の北西隅部分を検出したのみである。建物の大半は削平により損なわれているため全容は明らかにしえない。S B02と重複し、本建物の柱穴がS B02の柱穴を切っている。

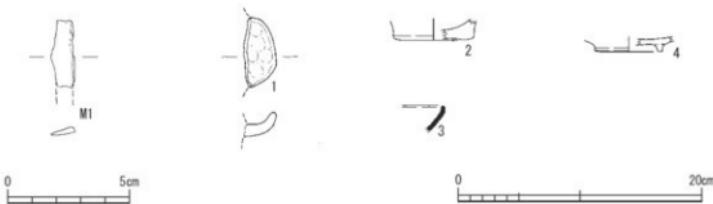
形状・規模 桁行方向の偏りはN-15° Wを示す。柱穴間距離は2.6mと他の建物より広い。

柱穴 掘方の平面形は方形を呈し、一辺の長さは50cm前後を測る。検出面からの深さ30cm以下である。

出土遺物 固化しうる遺物は出土していない。

第2面の調査

調査区西壁際にトレンチを設定し、第2面まで掘削・精査して調査した。その結果、縄文時代の造構は検出されなかつたが、第1面の造構掘削時にサスカイト剥片や縄文あるいは弥生土器の可能性がある土器片が出土している。特に南半部の造構埋土からは微細ながら弥生・縄文時代の土器片が多数出土している。したがって、本調査区内には造構はないものの、当該時期の希薄な遺物包含層が広がっているものと考え、近接地に生活域が想定される。



第10図 1区出土遺物

3. 出土遺物

出土遺物の大半は細片であり、出土量も少ない。須恵器片は少なく、土師器片などが大半である。土師器片などは細片のため、縄文土器、弥生土器、土師器の区別をつけるのは困難である。ただし胎土を観察すると、①比較的精良なもの、②1、2mm程度の砂粒を多く含むものに大別できる。後者は胎土に少量の雲母を含み、縄文土器または弥生土器の可能性がある。

1は土師器瓶の把手と思われる。2は平底の底部で弥生土器か。胎土は砂粒を多く含む。3は須恵器杯であろう。4は土師器椀の底部である。M1は断面が片刃状を呈することから刀器片か。

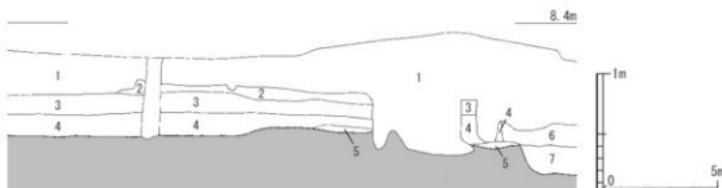
第2節 2区の調査

調査地は、旧一宮町内を北流する郡家川の左岸に位置し、周辺に広がる丘陵突端の微高地にあたる。本地区は1区から北に約350m離れており、今回の調査区との間には埋没谷が存在する可能性が高い。

今回の調査で検出した遺構は、溝（SD 1）1条、柱穴2基、鍛溝（SD 2）1条である。

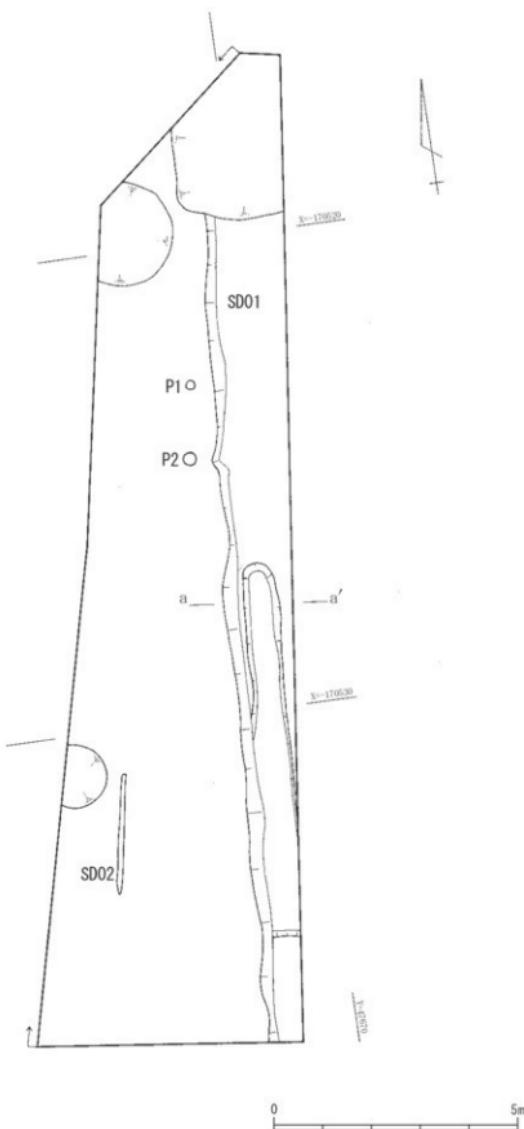
1. 基本層序

調査区は宅地に伴う盛土がなされるが、盛土直下に旧耕土面、さらのその下層にも耕土面があり、地山面となる。遺構検出面は地山直上である。



- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1. 表土・整地層 | 5. 灰黃褐 極細砂 鉄分沈着 |
| 2. 灰褐 シルト質極細砂（旧耕土） | 6. 暗灰褐 極細砂～中砂（SD 01埋土） |
| 3. 暗灰黄褐 シルト質極細砂（床土） | 7. 暗灰褐 シルト質極細砂～細砂（SD 01埋土） |
| 4. 灰褐 シルト質極細砂 旧耕土 | |

第11図 2区西壁断面図



第12図 2区全体図

2. 遺構

柱穴（写真図版7）

S D01沿いに2基検出した。P 1は直径30cm、P 2は直径20cmを測る。この柱穴は建物を構成する柱穴ではなく、簡易な構造物の痕跡であると考えられる。埋土から中世の土師器片が出土した。

溝

S D01（第13図 写真図版7）

検出状況 調査区東壁沿いで検出した。

形状・規模 主軸をやや東に傾け直線的に南北方向に伸びている。検出長約18m、最大幅1.6m、検出面からの深さ約40cmである。南半部では中央部が一段下り、南端では全体的に1段高くなる。検出した溝の肩沿いには杭列が存在するが、溝の最終段階に打たれたものと考えられ、近現代のものと考える。

層序 大きく3つに分かれ、上層から近現代、中層から近世（瓦）、下層から鎌倉時代の遺物が出土した。

出土遺物 埋土内から中世以降の遺物が出土している。

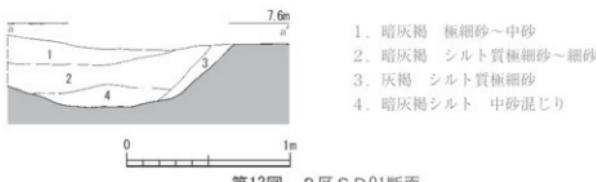
S D02（第11図）

検出状況 調査区南東部で検出した。

形状・規模 長さ25m、幅約15cm、検出面からの深さ約3cmである。形状から龜溝と判断した。

3. 出土遺物

5～7はS D01から出土した。5は土師器碗である。突出した底部から内彎ぎみに体部が立ち上がる。6須恵器鉢である。端部は水平な面をもつ。7は平底の底部をもつ土師器碗である。M2は不明鉄製品。



第13図 2区 S D01断面



第14図 2区出土遺物

第4章　まとめ

1区検出の掘立柱建物群について

本調査区で復元した建物は2群ある。

北半の一群でN15° W前後を示すもの SB01・02・06

南半の一群でN24° W前後を示すもの SB03・04・05

これら2群は、重複関係ないため先後関係は明らかではないが、北半の一群の中には重複するものがあり、存続時期に幅があるものと考える。調査区の制約から建物群の広がりは不明であるが、地形から判断して北西側に続く可能性はあるものの、その他の方向に広がりは持たないものと考える。南半の一群は、建物の梁行または桁行が揃うことから、計画的に配置された建物群である可能性がある。

また老ノ内遺跡の既調査では、第2次調査と第5次調査でN13° E前後の方位を示す掘立柱建物跡を検出している。これらは同一建物と推定され、柱穴の掘方は方形か梢円形を呈する。時期は平安時代を想定している。この建物の示す方位は本調査区北半の一群と近似するが、約200m離れることから、一連の施設とすることは困難であろう。ただし出土遺物は少ないため、明確な時期は明らかにしがたいが、柱穴掘方の形状、規模など共通する点もあり、同時期の建物の可能性はあると考えている。

老ノ内遺跡は出土遺物から奈良・平安時代が遺跡の主体的な時期の1つであり、隣接する郡家長谷遺跡と密接に関わっていると考える。

郡家長谷遺跡は、本遺跡の東側、郡家川の対岸に所在し、飛鳥～奈良時代を中心とした時期の遺構が検出される。調査区の制約から建物配置や規模など遺跡の全容は明らかではないが、方形掘方の柱穴などが検出される。柱穴は、建物は復元されていないものの、一辺が60cmを越える大型のものと、一辺30～40cmのものがある。これら遺構は溝によって区画される。遺跡の立地条件や律令期の遺物が多量に出土していることなどから津名郡衙の有力な推定地とされている。

本調査で検出した建物群の柱穴は、郡家長谷遺跡検出の方形掘方の柱穴のうち一辺30～40cmのものと同規模であり、少なくとも大型の柱穴で構成される建物とは規模や性格の異なる施設があったと考える。

また出土遺物を比較すると、郡家長谷遺跡は須恵器杯の出土が多く、特筆するものとして須恵質の円面鏡が出土している。それに対し、本調査に限って言えばいずれも細片の出土であるが、須恵器の出土は壺などごく少量であるのに対し、土師器の古める比率が高い。

建物群の性格

正保3（1645）年作成の「正保の国絵図」に島内の往還道が記されている。ここに往還道のひとつとして郡家濱村（現淡路市郡家）と国ケ村（現南あわじ市国衙）を結ぶ「中街道」が記されている。

「中街道」は三原郡に所在した淡路国府推定地と津名郡衙推定地である郡家長谷遺跡をほぼ直線的に結んでいるとの指摘がある。三原平野では「中街道」沿いに律令期の遺跡が所在し、またこのルート上に所在する山田地区遺跡のうち大歳遺跡（淡路市山田）では、遺構は検出されなかったものの、包含層から石帯が出土し、官衙的施設の存在が想定される。このように近世の「中街道」は道の起源が律令期までさかのほる可能性をもつ。

律令期の島内の主要街道としては南海道があり淡路島南部を由良から福良へ島内を横断する。また845年には淡路島北端の岩屋浜と対岸の明石浜に船と渡子を置くことが『日本後紀』に記されている。これによって岩屋浜と淡路国府を結ぶ島内を南北に縱貫する街道が整備されたことが推定される。島北

部の陸路は山地による制約のため、東西いずれかの海岸沿いとなるが、後世の街道のあり方などから本遺跡に近い志筑、郡家付近以南は内陸部を経て、南海道に至っていたと推定される。津名郡衙が郡家長谷遺跡に所在したかは今後の研究にゆだねなければならないが、老ノ内遺跡の既調査では奈良・平安時代を中心とした遺物が出土し、その中に綠釉陶器、製塙土器があり官衙的な性格の遺跡である可能性がある。本調査区から古代の遺物の出土はみられないが、計画的に配置された建物群などの存在から、官衙関連施設の一画をなす建物群が所在することも可能であろう。「正保の国絵図」では、北上した「中街道」は伊弉諾神社を経て西海岸部に至るルートをとるが、そのまま郡家長谷遺跡まで直線的に至ることも地形の制約は少なく想定が可能である。老ノ内遺跡と郡家長谷遺跡は島内を南北に結ぶ官道と東海岸から津名郡衙までの道路の接続点にある。島内の交通の要衝に位置し、また東海岸から西海岸を結ぶ間には志筑庵寺、伊弉諾神宮があり、淡路國の中でも主要な場所であることから、島内または郡内統治を担う施設の一部だったことが推定される。



報告書抄録

ふりがな	ろうのうちいせき							
書名	老ノ内遺跡							
副書名	(主)志筑郡家線交通安全施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第465冊							
編著者名	長瀬誠司							
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町 大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内） TEL079-437-5561							
発行機関	兵庫県教育委員会							
所在地	〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 TEL078-362-3784							
発行年月日	平成26(2014)年3月28日							
資料保管機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 TEL079-437-5589							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (遺跡調査番号)	調査面積 (m ²)	発掘原因
老ノ内遺跡	淡路市多賀	市町村	遺跡番号			20091113～ 20091120 (2009233) 20110428～ 20110428 (2011183) 20110926～ 20110927 (2011265)	200 m ² 16 m ² 92 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
老ノ内遺跡	集落	縄文・弥生		土器・石器				
		古代	掘立柱建物跡	須恵器・土師器・鉄器			津名都街に関連する建物群か	
		中世	溝	須恵器・土師器・鉄器			一帯の土地開発に伴う溝	
要約	老ノ内遺跡は淡路島の東西交通の要衝に位置する遺跡であり、津名都街推定地に隣接する。検出した主な遺構は1区で掘立柱建物群、2区で溝がある。1区検出の建物群は、建物の方向から2時期が想定される。柱穴の規模は大きくないが規則的に並ぶものがあり、道路の立地などから津名都街に関連する施設の可能性がある。2区検出の溝は中世以降近代まで継承されたものであり、一帯の土地開発の状況を示すものであろう。							

写真図版



1区全景（南から）



1区全景（北から）

写真図版 2





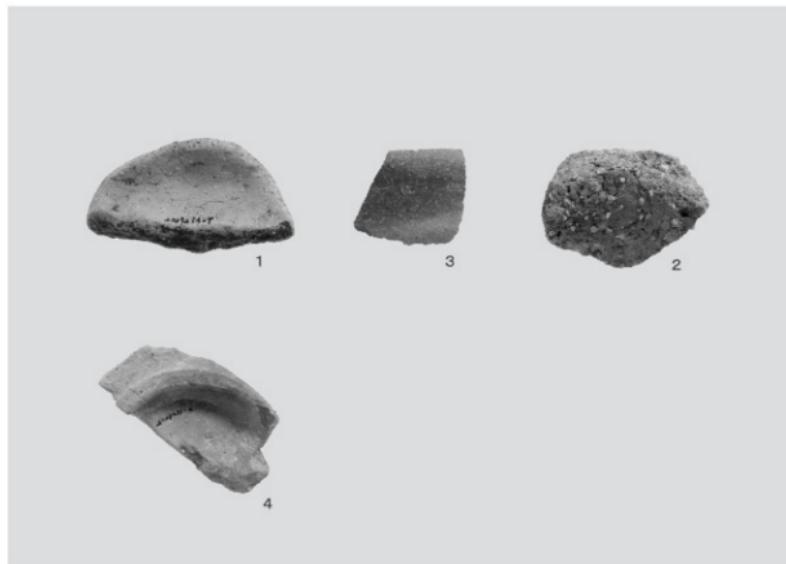
1区SB02（北から）



1区SB03（北から）



1区SB04（北から）



1 区 出土土器



1 区 出土鉄製品



1区現況（平成 23 年度撮影：北から）



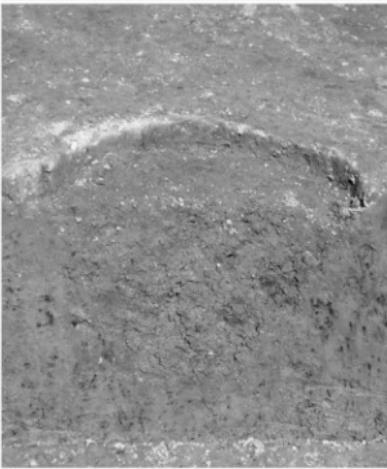
1区から2区を見る（平成 23 年度撮影：南から）

写真図版 6





2区柱穴（西から）

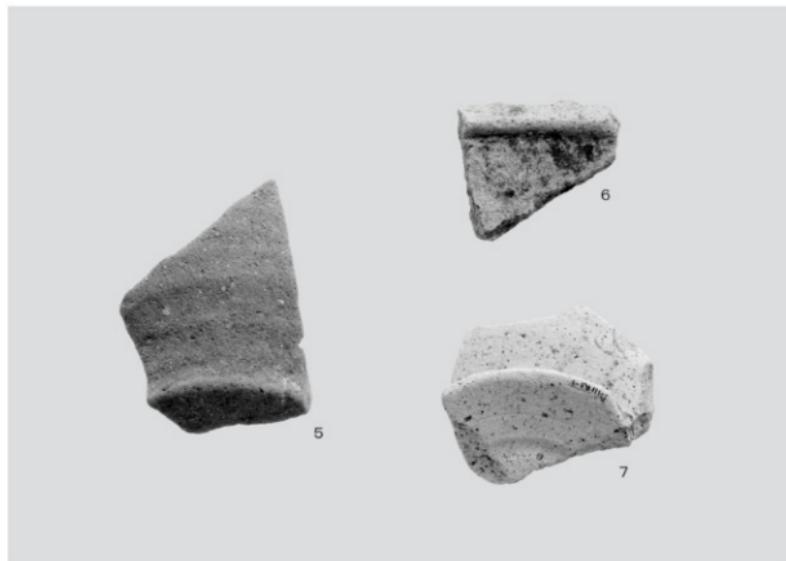


左：2区P1断面
(西から)

右：2区P2断面
(西から)



2区SD01
(北から)



2 区 出土土器



2 区出土 鉄製品

淡路市

兵庫県文化財調査報告 第465冊

老ノ内遺跡

—(主)志筑郡家線交通安全施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26(2014)年3月28日 発行

編集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号

(兵庫県立考古博物館内)

Tel. 079-437-5589

発行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷 富士高速印刷株式会社

〒679-4232 兵庫県姫路市林田町上伊勢962-3

